

令和3年度 県立中央高等学校自己評価表

目指す学校像		・「『知 (virtue)』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校 ・自律ある行動ができる生徒の育成に努める明るい学校 ・心のふれあいを大切にできる学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
○成果 ・資格取得推進とICT環境の充実に努め、効果的な学習指導を行うことができた。 ・4年制大学に延べ60名、短期大学に13名、専修学校に90名の生徒が合格した。公務員試験に4名が合格するとともに、就職希望者21名が内定し、就職内定率は100%であった。 ・頭髮・服装・挨拶・言葉遣いなどの基本的な生活習慣が定着してきた。 ・運動部11部すべてが県大会（含むオープン参加）に出場した。文化部・同好会もcovid19感染予防に努めながら自主的に活動できた。 ○課題 ・分かる授業の展開 ・個々の生徒に応じた進路目標の実現 ・マナーやルールを守る意識の向上 ・運動部の7割以上で県大会出場を実現		1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) 個々の進路希望に応じて適切な学習指導を行う。 (2) 指導法研究により、教員の指導力向上に努め、分かる授業を展開する。 (3) 生徒の資格取得を促し、学力向上を図る。 (4) ICTを活用し、より効果的な教育環境を整える。	B	
		2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実に努め、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外指導や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより、高大接続改革に対応できる学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。	A	
		3 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実	(1) 頭髮・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的な生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実に努める。 (3) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A	
		4 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 企画・運営等では生徒の考えを重視し、生徒の自主性を尊重した学校行事運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。	B	
		5 働き方改革の推進	(1) 業務量の適切な管理のため、学校組織自体や各種委員会の在り方を改善を図る。 (2) 在校時間管理システムの適切な運用により、勤務時間の超過を削減する。	B	
三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ・自己の将来ビジョンを自己の在り方生き方と関連して捉え、主体的に目標に向かって何事にも挑戦する生徒の育成	b	B	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ・多様な進路に対応した教育課程に基づく、基礎学力の向上とキャリア教育の推進	b		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ・希望進路の実現に向け、学ぶ意欲と挑戦する積極性を備えた生徒	a		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	・基礎学力の向上	・家庭学習の定着を図るため、週末課題の設定などの工夫をする。	b	B
		・自ら学ぶ力の養成を目指し、積極的に辞書(紙・電子機器)を活用させる。	・漢検の受験を奨励し、合格のための支援をする。	b	
	読書指導の推進と記述力の向上	・読書感想文課題や、自分の進路に関する読書案内などを通して、本に触れる機会を増やす。	・各種のコンクールに応募させたり、授業中に要旨や自分の考えを短文でまとめさせたりする。	b	
		・読書指導の推進と記述力の向上	・読書感想文課題や、自分の進路に関する読書案内などを通して、本に触れる機会を増やす。	b	
地歴・公民	基礎学力の向上	・ICTを積極的に活用し、身近な話題や時事的な話題を用いた導入や発問、作業学習、問題演習等により、考える力と基礎学力の向上を図る。	・成績不振者に対し、学習習慣の確立と基礎学力の向上のため補講や追試を実施する。	a	A
		・基礎学力の向上	・成績不振者に対し、学習習慣の確立と基礎学力の向上のため補講や追試を実施する。	b	
	受験指導の充実	・大学進学希望生徒に対して効果的に課外授業を行い、学力向上を図る。	・大学進学希望生徒に対して効果的に課外授業を行い、学力向上を図る。	b	
		・評価の工夫	・学習プリントやノートの提出、長期休業中の課題の提出等を通して、観点別評価の工夫を図る。	b	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題		
数学		・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実	・生徒の進路希望に応じた課外授業を展開する。 ・生徒の理解状況を把握し、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。	a a	A	・生徒の実態に応じ、個別に対応することができた。 ・数検の受験者を増やすことができなかった。生徒へのアプローチの方法など、来年度以降も検討していきたい。 ・学習習慣の確立までは至っていないので、引き続き取り組んでいきたい。 ・評価の改善についても、引き続き取り組んでいきたい。		
		・基礎学力の向上	・授業中に発問を多くし、定期的に確認テストを実施することで、基礎学力の定着を図る。 ・数学技能検定の受験を奨励し、合格のための支援を行う。	a b				
		・家庭学習時間の確保	・宿題や週末課題を課すことで家庭での学習習慣を確立させる。 ・長期休業課題を通し、安定した学力を維持する。	b a	B			
		・評価の工夫と改善	・定期考査、宿題、長期休業課題、授業態度等を通して、観点別評価の工夫を図る。	a	A			
		理科		・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。 ・I C Tを活用して授業を行う。 ・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。		c b b	B
・進学希望者への対応	・学年主体の課外の他に、個別で生徒対応の指導を行う。			a	A			
保健体育	・運動の楽しさの体験と生涯スポーツへの継続			・選択制の授業形態の充実や、生徒の技能段階に応じた授業工夫により、積極的な活動を促進する。 ・自己や周囲の健康、安全に配慮し、運動の楽しさを交えながら技能や体力の向上に努める。	a a	A	・体育の実技においては積極的な生徒が多く、運動を楽しみながら技能の向上に努めることができた。保健やスポーツ概論においても、ICT教材を活用し授業を行うことができた。 ・観点別評価において評価規準を定め、それに則って評価を行うことができた。 ・体力テストや健康診断などの結果を、いかに効果的に指導へ盛り込むかが課題である。	
	・運動をととした体力の向上			・体ほぐし、体作りの運動を効果的に取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。	a			A
芸術	・評価方法の工夫	・観点別評価により、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行い、それに基づく手立てを実践する。	a	A	・ワークシートを活用し、目標を持って学習に取り組むことができた。 ・生徒の演奏を録画して鑑賞することにより、よりよい演奏のために必要なことやステージマナーについても考えさせることができた。 ・デッサンや紙粘土での立体制作を通して基本的な造形力を育むことができた。 ・友人の作品のよさを話し合うなど、鑑賞の時間があまり取れなかった。			
	・自己の体力の向上	・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。	b	B				
保健体育	・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・ICT教材を効果的に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を実践させる。	a b	B		・ワークシートを活用し、目標を持って学習に取り組むことができた。 ・生徒の演奏を録画して鑑賞することにより、よりよい演奏のために必要なことやステージマナーについても考えさせることができた。 ・デッサンや紙粘土での立体制作を通して基本的な造形力を育むことができた。 ・友人の作品のよさを話し合うなど、鑑賞の時間があまり取れなかった。		
	・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。	a a					A
芸術	・＜美術＞基礎的な技能と芸術を愛好する心情や豊かな感性の育成	・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 ・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動を通して芸術と生活の関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。	a b	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
外国語	・基礎学力の向上	・小テストを実施したり課題やノート提出を求めることにより、定期的に生徒の理解状況を確認しながら基本事項の定着を図る。	b	B	・普段の授業に加え、小テストや提出課題、スタディサプリを利用した個に応じた課題や対面での個別指導などを通して基礎学力の向上と学習習慣の定着に努めた。 ・英検受験者への指導は課外や個別指導など積極的に行ったが、コロナの休校などにより受験者の増加には至らなかった。 ・生徒の4技能を育成し進路実現に向けて生徒の学力を伸ばすための授業研究が課題である。	
	・実践的英語力の向上	・授業や課外授業に、4技能をバランス良く育成する効果的な指導を導入する。 ・昨年度の英検受験者(3級45名、準2級62名、2級22名)を超える受験者が出るように奨励し、合格のための支援を行う。	a	B		
	・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実	・小テスト等により生徒の理解状況を確認しながら、実態に応じた授業展開を行うように工夫改善に努める。	a	A		
		・生徒の理解状況を把握し、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。理解や取組の不十分な生徒には個別指導を実施する。	a			
教科	家庭	・基本的な生活技術の習得及び実践的学習の機会の提供	a	A	・実習内容の見直しを行い、実態に即した効果的な実習を行うことができた。実践学習の機会やより学習を深めたい生徒への機会提供を行うことができた。 ・評価表については今後も検討を重ねたい	
		・評価方法の改善を図る	b	B		
	情報	・情報社会に参加する態度の育成	b	B		・動画配信では積極的に取り組む生徒が多く、情報分析能力やICT活用技術の向上を図れた。 ・プレゼン能力向上が課題である。
		・情報活用能力の育成	b	B		
教務	・進路希望に応じた学習指導 ・分かる授業の展開 ・資格取得による学力向上 ・ICTを活用した教育環境 ・図書館の有効活用	・個々の進路目標実現に向け、適切な課外授業や個別指導を行う。	a	B	授業・家庭学習・個別指導・課外授業等、一連の学習活動を関連づけて行い、効果を高めることが課題である。新教育課程開始に伴い、教員がより授業研究に取り組みやすい環境を整える必要もある。	
		・分かる授業を目指し、教授法と評価の研究に力を入れ、教員の指導力向上に努める。	b			
		・漢検、数検、英検の資格取得を促し、成功体験と学習習慣を身につけさせ、学力向上を図る。	b			
		・教員と生徒が電子黒板やタブレット端末を活用し、効果的な教育活動を行う環境を整える。	b			
進路指導	・課外指導等の充実 ・インターンシップの充実と進路意識の高揚 ・進路指導内容の充実	・研修への参加や、「図書便り」への執筆など、図書委員の自主的な活動を奨励する。	a	A	・新型コロナウイルスの感染拡大の下、進路指導計画を概ね遂行することはできたが、一部の進路行事が中止となった。 ・低学年からの進路意識の醸成に努め、進路実現のための準備に早期に取り組ませる必要がある。	
		・課外授業を充実し、学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。	a			
		・インターンシップを通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。	b			
		・総合的学習の時間等を有効利用する。	a			
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立と安全安心な教育環境の整備 ・ルールを主体的な遵守と公共のマナーや規範意識の向上 ・関係機関との連携を強化し、いじめの未然防止、早期発見及び早期解消を図る	・高大接続改革についての対応を充実させ、精選した最新の進路情報を提供する。	b	B	・服装・頭髪については、概ね校則が守られているが、継続して身だしなみの向上に努める。 ・自転車通学者の、歩道の併走走行についてが課題である。継続して道交法遵守を徹底させる。 ・各担任と家庭との連絡は密に行われ、トラブルもなく連携協力ができた。 ・情報モラル教育を推進しているが、SNS関連の指導案件が多い現状を踏まえ指導の徹底を図る。 ・定期的に、いじめアンケートを実施し状況の把握に努めることができた。	
		・定期的な頭髪・服装検査を実施し、高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。	a	A		
		・さわやかマナーアップキャンペーンにおいて、生徒会役員や各学年生活委員及び保護者、地域住民、関係機関等と連携・協力して地域ぐるみで生徒たちを見守る体制を構築する。	b			
		・毎週火・木曜日8時10分～30分、羽鳥駅から学校までの通学路における登校指導を実施し、生徒指導全般(安全な自転車運転、身だしなみ、挨拶の励行)を確認・指導する。	a			
保健指導	・担任による面談指導を通して、マナーやルールを主体的に遵守できる精神の向上を図り、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。 ・全校生徒を対象に講演会(交通安全教室、薬物乱用防止教室、携帯電話安全教室、制服着こなし教室)を実施することにより、マナーやモラルなど規範意識の向上を図る。 ・情報モラル教育を推進する。 ・いじめを早期発見するため、年3回いじめに関するアンケート調査を実施する。 ・警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。	・担任による面談指導を通して、マナーやルールを主体的に遵守できる精神の向上を図り、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。	a	B	・静かに待機させる指導が課題である。 ・早期発見、早期対応はできた。	
		・情報モラル教育を推進する。	b			
		・いじめを早期発見するため、年3回いじめに関するアンケート調査を実施する。	a			
		・警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。	b			
保健指導	・健康診断の円滑な実施 ・教育相談の充実	・事前の連絡の徹底と円滑な診断のためのサポート体制を整備する。	b	B	・健康診断の円滑な実施 ・教育相談の充実	
		・担任との情報交換を行い、不適応生徒の早期発見・早期対応ができるようにする。	a	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題			
特別活動	・学校行事の充実	・学校行事に積極的・自主的に関わるように働きかけ、責任感・協調性の育成に努める。	b	B	・蒼星祭には生徒会役員と実行委員、クラスマッチには生徒会役員が中心となり運営した。 ・キャリアパスポートを学校独自のプリントで実施している。			
	・部活動の充実	・各種行事の日程や実施方法の検討をし、より充実した学校行事を目指す。	a					
	・生徒のキャリア形成を促進	・部活動の様子や成果をHP及び中央だよりに定期的に掲載し、PRを図る。	a	A				
		・ホームルーム活動において、生徒の活動を記録し蓄積したキャリアパスポートを作成する。	b			B		
渉外	・各種行事の保護者参加を率向上	・PTA総会時に、3学年の進路説明会を開催し、総会への出席率が30%を超えるようにする。	—	B	・昨年同様、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止になる行事が多かった。 行事の見直しも考える必要がある。			
	・広報活動の活性化	・行事開催の3週間前には案内を配付できるように計画をすすめる。	b					
	・スクールバスの適切な運営	・PTA会報「もにたあ」を9月下旬と2月下旬の年2回発行する。	b			B		
		・業者と緊密に連携し、生徒の利用実態に即した運行ができるようにする。	b					
管理職	・各種委員会の在り方を改善	・委員会の存在意義の確認や構成メンバーの削減を検討し、実現する。	b	B	・運営等を工夫し、働き方改革は図られたが、実質的な改善には至っていない。 ・全体の勤務時間削減はできたが、80時間超過者0名が実現できていない。			
	・勤務時間の超過を削減	・「きんむくん」の適切な運用により、毎月末に、超過勤務時間を確認し、振り返りを促す。	b	B				
事務	・学校財務マネジメントによる校内予算の管理	・校内予算を有効活用するには、学校目標や経営計画等に基づき、その課題を改善すべく予算執行することも重要だと考えられるため、その具体的方策について検討していく。	b	B	・予算管理・執行について、校務運営委員会等で幅広く意見を聞き、本校の課題改善に繋がる効果的な活用を心がける。 ・施設設備に係る事故等が発生しないよう引き続き日々の巡視等に努め、老朽施設設備等の整備・修理を進めていきたい。			
	・茨城県予算の適正な執行	・公金を扱っているという認識のもと適正な事務処理を行うことは勿論、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。	a			A		
	・施設設備の適正な管理	・日々の業務の中で事務職員と技術職員の連携を図り、修理箇所への対応を早期に実施する。学校施設設備による事故が発生しないよう校内巡視等を強化する。	b	B				
第一学年	・基本的生活習慣の確立	・高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。	b	B	・高校での生活に慣れてきたことで、基本的生活習慣の乱れている生徒が何名か見られるようになってきた。継続的に指導をする必要がある。 ・進路意識の高揚に努める必要がある。 ・保護者との連携も引き続き継続していく。			
	・基礎学力の向上	・規則正しい生活をし、しっかりとした学校生活が送れるよう指導する。	b					
	・進路意識の高揚	・授業を第一と考え、そのための準備を整え集中して臨むことにより、学力の向上を図る。	b			B		
		・家庭学習を習慣化するための指導を徹底する。	a				A	
		・進路意識を高めるために進路講演会や出前授業・大学見学会を開催する。	a					
		・善悪の判断を正しくつけさせるために、継続的に指導をする。	a					
・保護者（家庭）との連携	・保護者面談を充実させるとともに、保護者との連絡を密にし、情報の共有に努める。	a	A					
第二学年	・生活指導の充実	・中核学年としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう継続して指導を徹底すると同時に、面談を重視して生徒の長所や個性を把握し、悩みや問題を早期に解決するよう努める。	a	A	・面談やあらゆる機会を通じて生活指導を行い、早期発見、早期解決に努めた。 ・スタディサプリを利用し、個に応じた学習指導を行うことができた。生徒たちの学習習慣の確立、大学進学に向けた課外授業に、いかに活用するかが課題である。 ・部活動、文化祭、代替遠足（修学旅行中止のため）を行い、チームメイト、級友同士の絆を深めることができた。			
	・基礎学力の向上	・すべての授業に積極的に取り組む姿勢を身に付けさせる。また、生徒の実態に合わせた課題に取り組ませることで、生徒1人ひとりの学力向上を目指す。特に英語検定、数学検定、漢字検定受検者を増やし、より上級の合格者数の増加を目指す。	a			A		
	・進路指導の充実	・進路講演会や出前授業、大学見学会等従来の進路行事に加え、ITを利用した情報収集に努め、進路別LHRや探究学習の時間を有効に活用することで、進路意識を高める。	b				B	
		・中核学年としての役割を自覚させ、部活動や文化祭、修学旅行等の行事に積極的に参加させ、体験的活動を通して生徒のより良い人格形成を促す。	a					A
		・学校行事への積極的な参加						
第三学年	・キャリア教育の充実	・進路別LHRを有効に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた適切な指導を実践する。	b	A	・生徒の実態に合わせ、効果的に進路別HRを実施できた。9月が休校になり、就職・進学の指導に苦労したが、職員の協力のもと希望の進路を実現することができた。 ・大学進学者向けにスタディサプリを導入したが、家庭学習や課外とどう結びつけるか、指導の方法に課題が残った。			
	・学力の向上	・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。 ①大学・短期大学合格者80名以上を目指す。 ②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定率100%を目指す。	a			B		
		・大学進学希望者の家庭学習時間平均4時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。	b					
		・平常課外や土曜課外、夏季・冬季休業中の課外への積極的な参加を促すとともに、最後まで学習に向かう姿勢を身につける。	a					
		・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底し、模擬テストを有効に活用する。	b					

※評価基準 a：十分達成できている b：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない